資料1

令和７年度
第３次和光市図書館サービス計画評価表

「みんなで育てる　身近な図書館」
～地域コミュニティを支える情報拠点を目指して～



和光市図書館　本館


和光市図書館　下新倉分館



©和光市

令和８年７月
和光市図書館

基本施策Ⅰ　**和光らしさを意識した図書館へ**

学びをつくる、知る、

【施策Ⅰ】
図書館を介した学びの機会、和光市の文化を創る

⑴　地域特性に目を向け、課題を発見するお手伝いをし、地域の方とともに文化を創る。
⑵　地域資料と情報
【地域・行政資料の収集・保存・提供、市民に役立つ情報の提供】

事業の概要	⑴ 地域特性に目を向け、課題を発見するお手伝いをし、地域の方とともに文化を創る。 ・地域を知り、課題を発見する ・地域の文化を創る
事業の成果	地域を知る事業 ・本館では、和光市の郷土作家で凧研究家の新坂和男氏にちなみ、市内の小学生親子を対象に凧作り講座を実施した。講座の実施に併せて新坂氏の資料、凧、絵画の展示を行い、地域の方々に和光市の郷土作家について知ってもらう機会を作った。 ・図書館まつりにて大石真の生誕百周年記念講演会として、児童文学研究者の藤田のぼる氏を招き、「百年の時を超えて、心に響く大石真の世界」また、朗読の会あめんぼによる「大石真作品朗読会」を開催した。他にも、館内に大石真作品の資料展示を行った。 ・分館では、地域の歴史的な知識や理解を深めてもらうために、十文字学園女子大学石川敬史氏による、講演会「図書館の記憶と記録」を実施した。和光市の図書館の歴史を振り返るとともに、座談会形式で地域文庫、移動図書館の思い出を共有し、これからの図書館を考える機会を作った。 ・令和7年度で県立和光国際高等学校と統合されることになった県立和光高校が校舎を閉鎖するにあたり、図書室所蔵の本の受け入れを行ったり、市内小中学校図書室にアドバイザーの選書を経て配本を行った。下新倉分館内には「和光高校のほんだな」コーナーを設置し、卒業生や地域の方々が県立和光高校の思い出を振り返る場を提供した。コーナー設置にあたり思い出エピソードを募集し、集まったメッセージはコーナーで常設設置している。

事業の概要	⑵ 地域資料と情報 【地域・行政資料の収集・保存・提供、市民に役立つ情報の提供】	
事業の成果	地域・行政資料の収集・保存・提供 ・市が発行した計画等を郷土資料として保存し、各課より依頼のあったパブリックコメントの募集や資料の掲示は館内掲示板で周知した。また、市民が所有している郷土資料は「和光市図書館地域資料収集方針」に基づき、寄贈等による受け入れを行い、資料の収集・保存・提供を行った。 ・市内団体が開催するイベント及び市内施設を会場とするイベントのチラシの配架やポスターの掲示を行うほか、郷土資料として当該資料のファイル保存を行い、市民に役立つ情報の提供を行った。 ・「和光市デジタルミュージアム」と連携し情報の提供を行った。 ・郷土作家大石真生誕100周年にあたり、令和7年度図書館まつりから12月 27 日まで著作資料の展示を行った。 ひとハコ図書館 ・市民や市内で活動する個人または団体を対象に、自身の活動の PR ができる「みんなのひとハコ図書館」を実施し、市内の地域情報の発信をした。(展示団体:広沢小学校図書委員会、広沢小学校4年生、和光市図書館サポーター)	
事業の課題と改善策	【課題】 ・地域課題のニーズを把握する。 ・郷土資料のデジタル化について検討していく必要がある。 【改善策】 ・郷土資料のデジタル化に取り組んでいる他市図書館を参考に、担当内でデジタル化にあたっての具体的な方法や、作業などの話し合いをする。	
図書館による評価(自己評価)	適切に行っている。本館・分館ともに「地域を知る事業」を開催することができた。郷土・行政資料の収集・保存については、行政資料や、市内団体からの発行物などを確認し、また、市役所各課に寄贈資料の呼びかけを行っている。 基本的に郷土資料は除籍しない方針だが、令和 5 年度に策定した収集や除籍に関する基準に添い、適切に管理することができた。	
図書館協議会による評価(外部評価)	1 適切である 2 概ね適切である 3 不十分である	【評価コメント】

基本施策Ⅰ　**和光らしさを意識した図書館へ**



【施策２】
資料、情報を収集し、保存し、提供する

⑴　魅力ある蔵書構成で新たな利用者を獲得
⑵　電子書籍【電子書籍導入の検討】
⑶　レファレンス（参考調査）サービスの活用

事業の概要	⑴ 魅力ある蔵書構成で新たな利用者を獲得 ・魅力ある蔵書
事業の成果	蔵書の充実 ・選書会議を定期的に開催し、収集方針に基づき、リクエスト資料や買替資料等を含めた選書を行い、児童書に関しては、ある程度の評価が定まってから購入を検討し、良書を揃えるように努め蔵書の充実を図った。また、未所蔵の資料については、他の図書館から借用し、利用者の要望に応えた。 ・一般書、児童書の購入割合については予算に準じて購入している。また、洋書やバイリンガル図書、障害者用の図書、参考図書等もバランスよく購入するとともに、洋書・漫画・視聴覚資料については購入前にアンケート調査を実施し、利用者ニーズを把握することができた。 ・外国語資料は昨年度に続き大型書店で現物を見て選書を行うことができた。職員による選書の他、事前に利用者や学校関係者、英語関連事業の講師やボランティア等への購入希望アンケート調査も実施していたことから、需要のある分野の本や、良書を見つけることができた。事業等でも紹介し、活用している。 ・YAコーナーではメディアで紹介されたり、中高生に人気の出版社から発行されている文庫本を購入したり、進路や職業選択に役立つような図書を中心に購入する等、10代の利用者に訴えかけられるような選書を行った。また、7年度は中高生対象の市民図書館講座として「本のPOPづくり講座」を開催し、その関連で「本のPOPコンテスト」を行うなど、YA対象のイベントを積極的に行った。 資料提供体制の充実 ・収集方針に基づき除籍した資料については、リサイクル資料として提供した。

事業の概要	⑵ 電子書籍【電子書籍導入の検討】
事業の成果	・近隣3市との連絡会で導入状況、利用状況、課題等意見交換を行った。 ・『電子図書館サミット』に参加し、電子書籍の情報収集、調査研究を行った。
事業の概要	⑶ レファレンス(参考調査)サービスの活用 ・レファレンス(参考調査)サービスのPR
事業の成果	レファレンスサービス ・カウンターだけではなく、電話でのレファレンスも積極的に行った。令和7年度は16件の電話でのレファレンスに回答した。 ・分館では、パスファインダーの内容を更新し、レファレンスサービスや調べ学習の充実に努めた。 レファレンス協同データベース ・国立国会図書館レファレンス協同データベースへの一般公開は、必要と判断した事例を再調査後に順次一般公開を行っている。現在、「調べ方マニュアル」28件・「レファレンス事例」5件を一般公開している。令和7年度の被参照数は、「調べ方マニュアル」9877件・「レファレンス事例」2645件である。
事業の課題と改善策	【課題】 ・電子書籍導入に関する予算要求を財政当局に行ったが、不採択に至った。また、朝霞地区四市図書館連絡会で、各市の利用状況を含め、情報交換を行った。 ・日々受けるレファレンス事例を国立国会図書館レファレンス協同データベースに積極的に登録、蓄積し、レファレンスサービスの向上に励んでいる。今後も一般公開事例を毎年増やしていく。 【改善策】 ・電子書籍導入に関して、引き続き予算要求を行っていく。 ・レファレンスサービスについて図書館だよりで特集を組んだり、図書館ホームページやX(旧 Twitter)で紹介する等して周知する事を検討。 ・図書館見学に来館した小学生や職場体験に来た中高生、インターンの大学生等に向けてレファレンスサービスを広く周知することで、将来、図書館で調査研究をする際にレファレンスサービスの利用を思いつくように導いていく。
図書館による評価(自己評価)	概ね適切に行っている。図書資料等の収集・保存については、引き続き図書館資料収集方針に則り、適切な資料収集を行っていく必要がある。

図書館協議会 による評価 （外部評価）	1　適切である 2　概ね適切である 3　不十分である	【評価コメント】

基本施策Ⅱ　**みんなが利用しやすい図書館へ**



【施策 3】
すべての人へ図書館サービスを届ける

⑴ 図書館サービスの PR【利用者拡大への働きかけ、利用案内】
⑵ 障害者サービスの充実
⑶ 高齢者へのサービス
　【高齢者向け資料の充実、認知症にやさしい図書館、
　ホームページの利用の案内】
⑷ 国際理解、外国人の暮らしに役立つサービス

事業の概要	⑴ 図書館サービスのPR【利用者拡大への働きかけ、利用案内】 ・利用者拡大への働きかけ ・利用案内
事業の成果	図書館サービスのPR ・本館、分館でのブックスタートに加え、来館が困難な方や対象日に参加できなかった方へのフォローとして、北子育て世代包括支援センター、北第二子育て世代包括支援センター、南子育て世代包括支援センター、和光市総合児童センターで出張ブックスタートを実施した。 　また、健康増進センターで10か月健診日にブックスタートフォローを実施した。市内公共施設で出張ブックスタートやブックスタートフォローを実施することで、自宅が図書館から遠い方やまだ図書館を利用したことがない方に向けて図書館サービスをPRし、図書館利用者拡大への働きかけを行った。 （本館） ・10月25日（土）26日（日）に図書館まつりを開催した。児童文学研究者の藤田のぼる氏を招き、和光市出身の作家大石真に関する講演会を開催した。図書館で長年活動をしているボランティア団体の協力を得て、読み聞かせやパネルシアター、影絵工作などを楽しんだ。 （分館） ・下新倉分館、下新倉児童館、下新倉学童クラブ共催のふれあいまつりを開催し、おはなし会とまちがい探しを行った。 ・下新倉小学校、下新倉児童館、下新倉学童クラブ、周辺自治会と協力して、下新倉地域のおまつりとして下新倉サマーフェスタを開催し、分館は「図書館の紙芝居屋さん」を行った。ボランティアの協力を得てボードゲームも実施した。

	情報発信 ・図書館だよりを12回発行し、市内各施設や市内高校に設置した。 ・図書館ホームページ、図書館X（旧Twitter）で情報を発信した。 利用案内 ・利用案内については、窓口や電話で利用者からの問い合わせが多い項目を見直した。
事業の概要	⑵ 障害者サービスの充実 ・図書館内の障害者サービスの充実 ・図書館外の障害者サービスの充実
事業の成果	障害者サービス ・令和7年度は、郵送貸出サービスは35件、デイジー再生機貸出サービスは0件だった。郵送貸出サービスの利用が昨年度の2倍に増えており、障がい者サービスの新規登録が4件あった。また、対面朗読を行っていただくボランティアに向けての音訳者養成講座も引き続き年6回行っており、レベルアップに努めていただいている。 ・対面朗読、郵送貸出サービスについてPRする名刺サイズの用紙を作成し、配布を行った。 啓発展示 ・分館では、10月のディスレクシア月間にあわせて、ディスレクシア（識字障害）についての掲示、関連本の展示を行った。
事業の概要	⑶ 高齢者へのサービス 【高齢者向け資料の充実、認知症にやさしい図書館、ホームページの利用の案内】
事業の成果	高齢者向け事業 ・本館では、市民図書館講座「今日から始める終活・エンディングノート」を実施した。自身の暮らしと向き合い、将来の不安を整理できる実務的な視点を得られる構成でご講演いただいた。 ・分館では、「大人のための朗読会」を実施した。市内で活動している「朗読の会あおぞら」による朗読会は、地域で活動している方々の発表の場であり、耳からの読書を楽しんでいただく機会となった。ブックリストや関連書籍を用意し、図書館の利用を促した。 情報発信 高齢者施設等での利用に繋がることを目的として、分館で所蔵している高齢者向けの紙芝居の一覧表を作成し、館内掲示およびホームページでの公開を行った。 ホームページの利用の案内 （本館） ・「図書館の本をスマホでらくらく予約しよう」講座は、1対1の対面方式

	で、インターネット予約に関して参加者が納得するまで説明を行った。日常業務でも講座と同様の案内を行った場合は記録している。令和７年度は講座参加者９件・カウンター受付４３件。予約システムの更新後だったため、質問者が増えた。講座の参加者はインターネットに不慣れな方が多いため、今後は講座回数を増やすなど対策を検討していく。
事業の概要	⑷ 国際理解、外国人の暮らしに役立つサービス ・役立つ資料の充実
事業の成果	国際理解についての事業 （本館） ・ボランティアサークル「Wonder Club」による英語絵本の読み聞かせを5回行った（「図書館まつり」での開催を含む）。英語絵本の読み聞かせだけではなく、英語の歌を歌って、振付を皆で覚えて踊り、親子で楽しみながら、英語と文化に触れる時間となった。 （分館） ・子どもへの英語指導経験が豊富な講師による英語おはなし会「Peek'n See!」を、令和6年度より年４回実施している。英語絵本の読み聞かせだけでなく、日本と外国の様々な文化を英語で紹介し、関連本の展示や工作も行い内容も充実させた。リピーターが多く人気事業となっている。 サービスの充実 ・令和5年度から、ブックスタートへの外国人親子の参加率向上のため、やさしい日本語版のポスターとチラシを作成し、保護者が外国人の家庭に送付するチラシを令和5年10月以降やさしい日本語版に切り替えた。図書館ホームページにも掲載して周知を行ったことで、外国人のブックスタート参加があった。 ・市内小学校への外国人児童の入学や転入が増えており、幅広いニーズに対応するため、令和7年度は英語、中国語、韓国語、ベトナム語、アラビア語の児童書を購入した。
事業の課題と改善策	【課題】 ・障害者サービスについては、利用されている方やサービスが限定的な面があり、また現在の登録者数も 26 件となっており、図書館の障がい者サービスが知られていないのが現状である。 ・市内に住む外国人への洋書コーナー、多文化コーナーのアピールが十分でない。 ・引き続き、利用者拡大の働きかけをしていく必要がある。 【改善策】 ・障害者サービスを知ってもらうために、市の担当部署と連携しながら、PR を続けていく。

	・外国人コミュニティを調査し、直接アピールしていく。	
図書館 による評価 （自己評価）	適切に行っている。 なお、図書館サービスについては、引き続き各サービスについてのPRを続けていく。	
図書館協議会 による評価 （外部評価）	1　適切である 2　概ね適切である 3　不十分である	【評価コメント】

基本施策Ⅱ　**みんなが利用しやすい図書館へ**



【施策４】
すべての子どもに読書の喜びを届ける

⑴　本と出会うきっかけづくり
　【乳幼児と保護者が本に親しむきっかけづくり、青少年（中高生含む）が本に親しむきっかけづくり】
⑵　第４次和光市子ども読書活動推進計画の推進

事業の概要	⑴ 本と出会うきっかけづくり 【乳幼児と保護者が本に親しむきっかけづくり、青少年（中高生含む）が本に親しむきっかけづくり】
事業の成果	乳幼児～小学生向け事業 「ブックスタート」 ・生後４か月のあかちゃんと保護者を対象に絵本の読み聞かせやわらべうた、図書館のあかちゃん向け事業の紹介を行った。その場で図書利用券の作成もできるので、ブックスタート参加後に本を借りて帰る方もいた。はじめて図書館を利用した方も多く、乳幼児と保護者が本に親しむきっかけづくりに繋がった。 　また、ブックスタートへの参加をきっかけに「あかちゃんタイム」や「あかちゃんと楽しむ絵本をわらべうた」等他の図書館事業への参加にも繋がった。 ・さらに、来館が困難な方や対象日に参加できなかった方へのフォローとして、健康増進センターで10か月健診実施日に「ブックスタートフォロー」を行い、まだ絵本を受け取っていない方へ絵本をお渡しした。 「あかちゃんと楽しむ絵本とわらべうた」 ・本館では、6か月から2歳児を対象に年11回開催した。図書館ボランティアによる季節の歌・絵本の読み聞かせ・わらべうたを行い、子どもの“聞く耳”を育て、親子の交流の場を提供した。また、来年度に向けての利用者アンケートを実施した。 ・分館では、同じ建物内にある下新倉児童館と協力し、年開催6回中2回を児童館に場所を移して行った。図書館ボランティアが読み聞かせとわらべうたを行った後、児童館職員があかちゃんおもちゃ作りを行うことで、普段図書館を利用していない親子にも図書館事業を体験してもらうことができ

	た。2回目は1回目より参加者も増え相乗効果が見込めるため、次年度も継続して行う。 「あかちゃんタイム」 ・乳幼児とその保護者の『絵本やわらべうたとの出会いの場、及び交流の場』を提供した。当事業は申し込み不要・出入自由とし、興味を持たれた全ての方を受け入れている。 　参加者交流の面では、話が弾むように職員から話題を投げかけたり、個別に読書相談にのるなど、育児に関する情報収集や本に関する疑問点を解消できるようにアプローチをした。あかちゃん事業に興味を持つ層へのダイレクトPRとして、結びの挨拶では他のあかちゃん事業への参加も呼びかけている。また、X（旧Twitter）での告知も継続して行っている。 「土曜のおはなし会」 ・本館では、読み聞かせ経験豊富なボランティア団体による、第1～3土曜日のおはなし会に加え、季節感のある「七夕おはなし会」「クリスマスおはなし会」を実施し、多くの親子に絵本の読み聞かせを楽しんでもらった。小学生以上を対象とした「世界おはなしめぐり」では、外国の物語によって子どもたちの想像力を養うとともに、異文化への興味、関心を高める機会となった。本館では土曜日のイベントして定着しており、リピーターを生み出している。 「土曜えほんタイム」（本館） ・第4、第5土曜日に本館にて実施し、本と子ども達が出会う場を提供した。読み聞かせした絵本は借りて帰ることができるので、子ども達が好きな絵本を選んで借りて帰る姿が見られた。 「子どもの科学」 ・小学生を対象に本館・分館あわせて3回実施した。テーマにそった科学遊びのあと、優れた科学読み物を紹介して貸出を行った。メールでの申し込みに変更し、申し込みしやすい環境を整えた。 「ぶっくわーるど」 ・小学生を対象に本館・分館あわせて3回実施した。本に関しての造詣が深い講師を招いて良書を紹介してもらった。参加した児童は、普段読まないようなジャンルの本にも興味を示してくれて、講師が紹介した本をたくさん借りていってくれた。この流れを次年度にも繋げていきたい。 「夏休み宿題教室」 ・市内小中学校の教員の5年次研修として、読書感想文等の児童の宿題サポートやカウンター業務、おすすめする図書の紹介文作成等を行ってもらうと共に、図書館の役割や図書館と学校の連携について説明を行い、相互理解を深めた。

	「図書館のおしごと体験」（本館） ・市内小学校４～６年生を対象に実施した。本探しや普段はできないカウンターでの貸出・返却業務を体験してもらうことで、図書館を身近に感じてもらうことができた。また、カリキュラムを記載した冊子を配布し、作業内容のメモ取りよりも、ここでしか出来ない体験に注力できるよう配慮をした。 「夏休み子どものつどい」（本館） ・普段からよく図書館に来てくれている子どもだけでなく、なかなか図書館に足を運ばない子ども達にも夏休みという機会を利用して図書館に来てもらいたいということで開催している事業である。令和７年度も３つのボランティアサークル協力のもと、読み聞かせや影絵の上映を行った。 「絵本とおはなしの会」（分館） 分館では、個人ボランティアと職員で協力し、令和７年度は全11回（８月を除く毎月）実施し、本と子ども達が出会う場を提供した。 「ひまわりおはなし会」（分館） ・引き続き下新倉分館と下新倉児童館での交互開催を行うことで、普段図書館を利用していない児童館利用者や、下新倉学童クラブの児童にも本との出会いの場を提供した。 「ぬいぐるみのおとまり会」（分館） ・ぬいぐるみと一緒にお話を聞いたあと、館内を見学。預かったぬいぐるみが館内で過ごす様子を写真に撮り、お迎え時にアルバムをつくった。図書館に親しみを持ってもらうことができた。 「夏休み自由研究のタネ」（分館） ・小学生を対象とした夏休み学習支援。アイディアカード「自由研究のタネ」の配布、関連資料の展示を行い貸出促進につなげた。 ・学習支援の一環として「図書館司書のおしごと体験」と称した職場体験を受け入れた。児童が図書館の業務を行うことで図書館を身近に感じてもらうことができた。 「市民図書館講座クリスマス工作」（分館） ・講師による手形アート講座と職員による絵本の読み聞かせ、関連本の展示を行った。親子で参加して楽しんでもらうことができた。 中高生向け事業 「ビブリオバトル」（本館） ・市内中学生にバトラー（発表）を、和光国際高校の生徒にデモンストレーションをしてもらうことで、本を読んだ感想を語り合い、青少年が本に親しむきっかけづくりを行った。

	・市民図書館講座にて「自分の好きを伝えたい！ほんのPOPづくり講座」を開催し、本を紹介するPOPづくりを学び、実際に作成した作品の講評を受けた。また、POPづくりの関連本を展示し、本を読むきっかけを作った。 「中高生ほんのPOPコンテスト@和光市図書館」（本館） ・市内在住在学の中高生を対象に、自分の好きな本やおすすめしたい本のPOPを本館・分館・市内中学校高校で募集し、本館にて投票を行った。図書館まつりにて上位9名の発表と、POPで紹介された本の展示を行い、貸出促進につなげた。 「図書館クラブ」（分館） ・「お楽しみ読書バッグづくり」として、英字新聞のエコバッグとおすすめ本を選んでタグを作成した。また、新年に本の福袋として、利用者に提供し、貸出の促進につなげた。
事業の概要	⑵ 第４次和光市子ども読書活動推進計画の推進 ・３つの基本方針に基づく計画の推進
事業の成果	・環境整備、連携、啓発の観点から、図書館アドバイザーに対しては、年３回行われている定例研修会の他に、図書館で開催している職員研修会への参加を促した。また、選書の機会の提供として図書館を会場とした図書展示会を行った。 ・各学校で活動する保護者ボランティアに向けては、学校図書館アドバイザーと連携して図書館で開催する「ボランティア交流会」への参加を呼び掛けた。交流会では、図書館で活動中のボランティア団体によるデモンストレーション、グループディスカッション、ブックリスト配付、ボランティアからの会員募集の呼びかけ等を行い、活発な意見交換の場となった。 ・下新倉分館においては、引き続き隣接する下新倉小学校と連携し、朝の読み聞かせへの図書館職員の参加や、授業内での図書館利用、休み時間貸出、長期休暇（夏休み・冬休み）前の図書の貸出、テーマ本（調べ学習授業用）の他に依頼テーマ資料の月間貸出、教員向けとして職員室への教育関連資料の貸出を実施し、読書に親しむ機会や場の提供を行った。また、小学生のための調べかた案内と情報ファイルの整備と提供を行い、図書資料を使った学習活動の推進を図った。
事業の課題と改善策	【課題】 ・YA 対象の市民図書館講座は YA 世代が勉強や部活で忙しく図書館へ訪れる機会が少ないため、事業の周知が難しい。普段図書館に来る機会のないタイプの子どもたちに、図書館に親しむ機会を作る工夫が必要である。 ・「図書館のおしごと体験」（本館）については、子どもによって進捗に差

	が出てしまうため、時間配分や手助けの範囲の見極めを工夫する必要がある。 【改善策】 ・分館「あかちゃんタイム」については、ブックスタート事業開催時に参加の声掛けを行ったことで、参加者を増やすことができた。 ・YA 対象の市民図書館講座では、全校生徒へチラシを配り、中学校のアドバイザーや高校の図書主任の先生へ周知するなど、積極的なアピールをしていく。 ・「図書館のおしごと体験」（本館）については、特にブッカーかけで進捗の差が顕著となる。担当者は全体を見渡し、本人が楽しく過ごせるように、受け持ちの子どもに合わせたフォローを心がける。	
図書館 による評価 （自己評価）	適切に行っている。	
図書館協議会 による評価 （外部評価）	1 適切である 2 概ね適切である 3 不十分である	【評価コメント】

基本施策Ⅲ　**居心地の良い図書館へ**

資料と人との出会いの

【施策 5】
交流の場、居場所を創る

⑴　居場所としての図書館【設備の改善・充実、居場所づくり】
⑵　本を通じた出会いの場、図書館
　【出会いの仕組みづくり、利用者が本の感想等を発信】
⑶　地域活動との連携
　【地域で活動する団体・企業・商店・関連施設・公共施設との連携、読み聞かせなどのボランティア支援】

事業の概要	⑴ 居場所としての図書館【設備の改善・充実、居場所づくり】
事業の成果	・中高校生を対象に、テスト期間前の土曜日、日曜日、祝日の事業がない時間帯に会議室を自習室として開放した。また、夏休みには対象を広げ、会議室が空いている日に限り、小学生から高校生へ会議室を自習室として開放し、子どもたちの居場所づくりを行った。
事業の概要	⑵ 本を通じた出会いの場、図書館 【出会いの仕組みづくり、利用者が本の感想等を発信】
事業の成果	本を通じた出会いの場 「図書館シネマ」（本館） ・DVD上映会を行った。（大人向け、子ども向け各二日）様々な文化活動の場として、図書館を広く利用して頂くことで、身近な場所であると市民に感じてもらうことを目的として行い、参加者から高評価を得た。 「大人のための朗読劇場」（本館） ・ボランティアサークル「朗読の会あめんぼ」による朗読劇を年2回開催した。質の高い朗読劇を見ることで朗読や読書への関心を高めてもらうことを目的とした事業だが、参加者からは満足度の高い感想が寄せられている。終了後には関連図書が借りられていく等の効果が見られる。 「本の福袋」 ・本館は、合計30セット（幼児～大人向け）作成し貸出をした。そのうち図書館サポーターに6セット選書と袋の作成をしてもらった。図書館まつりのブックツリーともコラボレーションを行い、その中から12セット用意した。今後も様々な方法で利用者参加型を推進していく。 ・分館は、合計35セット（幼児～大人向け）を作成し貸出をした。そのうちの18セットは、図書館クラブ事業で中高生が選書と袋の作成を行った。また7セットは5年次研修の教員が選書を行った。

	「ビブリオバトル」（本館） ・市内高校生にバトラーとして発表をしてもらうことで、本を読んだ感想を語り合い、人と人とのつながりができる場を提供した。 「大人のための朗読会（旧：おとなの朗読会）」（分館） ・昨年度まで朗読会を行っていた団体が開催を辞退されたため、市内で活動している別の団体に開催を打診し快諾を得た為、3月に事業名を変更して開催した。図書館での開催は初めての団体だったため、ポスター掲示を広い範囲で行ったことが功を奏したのか、参加者は定員の25名を大きく上回り、図書館に今まで来館したことのない方も多く来館した。朗読の魅力や図書館自体について知ってもらう良い機会となった。 「図書館サポーター」（本館） ・6月・8月・10月・12月・3月に参加を募り、本の修理、書棚整理、本のシール貼り替え、「ひとハコ図書館」で展示するおすすめ本選びとPOP作り、「福袋用の新聞バッグ作成」などの活動を行った。その他、図書館で開催する事業を案内し、参加を呼びかけた。
事業の概要	⑶ 地域活動との連携 【地域で活動する団体・企業・商店・関連施設・公共施設との連携、和光市立小・中学校地域学校協働本部との連携、読み聞かせなどのボランティア支援】
事業の成果	ボランティア支援・和光市立小・中学校地域学校協働本部との連携 「ボランティア交流会」 ・昨年度に続き、図書館で活動している団体によるデモンストレーションを行い、普段は見ることのない他団体の活動を実際に見る機会を作った。今年度は参加者に読み聞かせにおすすめする絵本を持参し、グループ内での紹介と全体への発表をしてもらい、分館長から内容についてフィードバックを行った。各団体間での新たな結びつきを生み、ボランティア活動の活発化に繋がった。 「読み聞かせボランティアステップアップ講座」 ・長年読み聞かせボランティアを行っている方を対象に、読み聞かせ技術向上を目的とした連続講座を全3日間行った。参加者からは技術とモチベーションの向上に繋がったと高評価を貰った。図書館としても、読み聞かせボランティアの支援拡充に繋がった。 地域活動との連携 「ひまわりおはなし会」（分館） ・引き続き複合施設内の下新倉児童館と下新倉学童クラブと連携し、児童館と交互開催を行い、児童館来館者や下新倉学童クラブの児童が参加した。 「下新倉小学校との連携」（分館）

	・朝の読み聞かせへの分館職員参加では、教職員や児童、保護者との交流の機会にもなっている。 「大人のための朗読会」（分館） ・地域で活動する団体による朗読会を開催し、加者同士の交流の場を作った。 市役所との連携 ・健康支援課「こころの健康づくり」テーマ本展示（本館、分館）	
事業の課題と改善策	【課題】 ・読み聞かせボランティアとして活動している方の大半は独学で読み聞かせについて学んでいるため、技術にばらつきがある。読み聞かせの基本的な技術や、なぜ読み聞かせをするのかなどを知らない方が多いため、読み聞かせボランティアの技術の向上が必要と思われる。 【改善策】 ・定期的に読み聞かせボランティア向けの講座を行うことで、読み聞かせの基礎を学んでもらい、読み聞かせボランティア全体の技術の向上を計る。	
図書館による評価（自己評価）	概ね適切に行っている。学校・地域やボランティアと連携するなど、資料と利用者の出会いや、人と人とのつながりの場を提供することができた。	
図書館協議会による評価（外部評価）	1　適切である 2　概ね適切である 3　不十分である	【評価コメント】

基本施策Ⅲ　**居心地の良い図書館へ**



【施策６】
サービスを提供する基盤を整備する

(1)　本館老朽化への対応【新館建設の検討、大規模修繕】
(2)　職員研修【図書館サービスに関する専門的な研修】
(3)　図書館運営の点検評価【図書館協議会】

事業の概要	(1) 本館老朽化への対応【新館建設の検討、大規模修繕】
事業の成果	・令和７年度は、照明器具交換、男子トイレ修繕、電動式移動棚部品交換、空調機洗浄、テラス庇部修繕、全熱交換機等部品交換等を行った。 ・新館建設場所については、市の施設担当や他部署と連携をしながら検討している段階である。
事業の概要	(2) 職員研修【図書館サービスに関する専門的な研修】
事業の成果	・令和７年度は職員研修を２回開催した。第１回は、久喜図書館主任司書の佐藤綾子氏を講師に招き、講座「埼玉県立図書館の児童サービスと子ども読書支援センターについて」を開催した。和光市図書館職員２９名が参加者し、県立図書館の児童サービスの内容や特別支援学校への支援の現状について学んだ。第２回は、日本子どもの本研究会会員の大井むつみ氏を招き、講座「読み聞かせとは何かを考える」を開催した。学校図書館アドバイザー１２名、市内学校教諭２名、図書館職員３２名、市教育委員会職員１名が参加し、絵本の魅力や読み聞かせをする際の心構えや本の選び方などを学んだ。 ・児童サービス研修、公共図書館職員研修、公共図書館長研修、障害者サービス研修、参考調査研修、地域資料研修等計画的な職員研修を実施し、図書館サービスに関する知識を深めることができた。またオンライン研修等、職員が自主的に研修に参加し、スキルの向上が図られた。
事業の概要	(3) 図書館運営の点検評価【図書館協議会】
事業の成果	・令和７年度第１回は、令和６年度の図書館サービス計画に関する評価を行い、審議してもらった。また、昨年度から審議していた「これからの図書館のあり方について」の答申を受けた。 　図書館協議会の審議内容は図書館ホームページ、市のホームページに掲載し、市民への周知を図った。

事業の課題と改善策	【課題】 ・本館は開館から４０年以上が経過しており、館内の至る所に老朽化の影響がみられる。そのため、現有施設設備を維持していくことが重要である。 ・図書館は他の商業施設との共有建物となっており、共有部分に関しては、他の商業施設との連携を取りながら、修繕工事を進めていく必要がある。 ・新本館建設の検討に関しては、和光市という狭い土地の中で場所を確保していくため、市各部署と連携を取りながら進めていく必要がある。 【改善策】 ・引き続き図書館施設の改修及び整備に努めていく。 ・緊急的な修繕工事が出た場合は、補正予算を組むなど、図書館利用に影響が出ないように対応をしていく。 ・新本館建設の検討に関しては、市各部署と情報を共有していく。	
図書館による評価（自己評価）	適切に行っている。図書館施設等の保全については、予防的保全にかかる予算を確保することが困難であるため、施設・設備に修繕等の必要が生じた際は、その都度補正予算等で対応せざるを得ないのが現状である。施設の老朽化による影響が随所に見られるため、現状の状態を維持及び新本館建設を市各部署と情報を共有していく。	
図書館協議会による評価（外部評価）	1　適切である 2　概ね適切である 3　不十分である	【評価コメント】